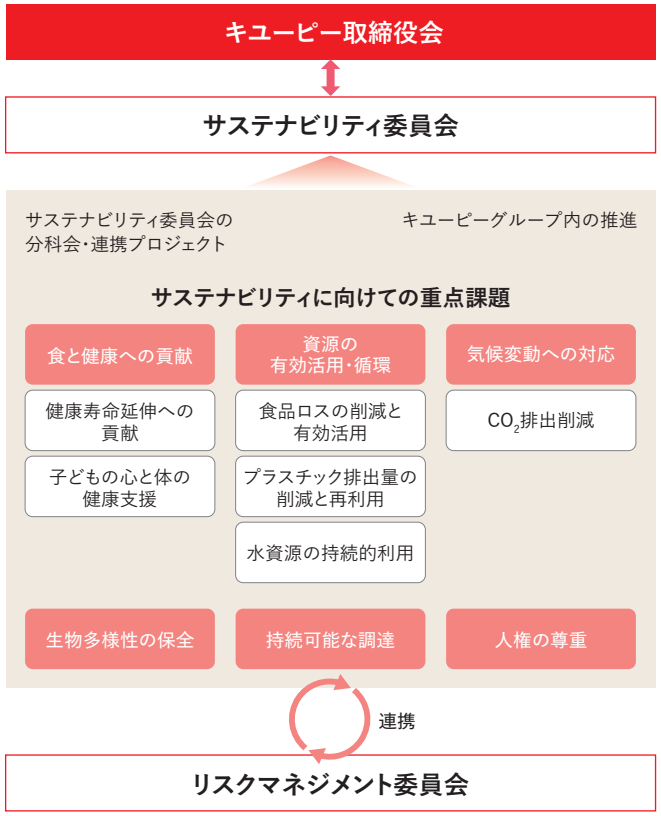
中期経営計画

サステナビリティ

2021-2024年度中期経営計画では、「持続的な成長を実現する体質への転換」をテーマに、社会・地球環境への取り組みを強化することを掲げています。グループ サステナビリティ基本方針のもと、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を参考に重点課題を特定し、グループ一丸となり取り組みを推進しています。2022年度よりサステナビリティ基本方針に「生物多様性の保全」を追加、内容を一部変更し、サステナビリティに向けた6つの重点課題としました。社会・環境課題解決に取り組んでいくことは、未来に向けた必要な投資であると捉え、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって課題解決に取り組みます。

サステナビリティ推進体制



サステナビリティ基本方針

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、解決をめざします。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体を通じて人と環境をおもいやり、笑顔の溢れる未来を創ります。

食と健康への貢献	● サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、栄養・健康価値を追究し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。 ● 未来を創る子どもたちの心と体の健康を、食を通じて応援します。
資源の有効活用・循環	● 卵のすべてを有効に活用する世界で唯一のメーカーとして、技術を磨き、価値を創造します。 ● 食べ方提案と未利用部の活用により、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。 ● プラスチックにおける循環型社会の実現のため、商品の環境配慮設計や社外との協働を進めます。 ● 水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷を低減します。 ● 需要情報と生産・輸配送情報のマッチング技術を深耕し、食品ロスを削減します。
気候変動への対応	● 原料調達から消費まで、バリューチェーン全体のCO_2排出量削減をめざします。
生物多様性の保全	● 生物多様性の負の影響を最小限に抑え、生態系の回復、再生に努めます。
持続可能な調達	● 安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先と協働して進めます。
人権の尊重	● 従業員のダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、ビジネスに関わるすべての人の人権を守ります。

キユーピーのサステナビリティ活動 https://www.youtube.com/watch?v=lY66OHaXsx4

中期経営計画

サステナビリティ目標と進捗

サステナビリティ目標と進捗

重点課題	取り組みテーマ	指標	2022年度実績	2024年度目標	2030年度目標
食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献	一人ひとりの食のパートナーとして ● 1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ● たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進			
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数 (2019年度からの累計)	28.6万人	40万人以上	100万人以上
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率(2015年度比)	46.6%	50%以上	65%以上
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜:キャベツなど	77.5%	70%以上	90%以上
		商品廃棄量削減率 (2015年度比)	74.8%	60%以上	70%以上
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率 (2018年度比)	7.8%	8%以上	30%以上
	水資源の持続的利用	水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)	1.6%	3%以上	10%以上
気候変動への対応	CO_2排出量の削減	CO_2排出量削減率 (2013年度比)	26.1%	30%以上	50%以上
生物多様性の保全	生物多様性の保全	生物多様性の保全に努め、豊かな自然の恵みを次世代につないでいくために 「キユーピーグループ 生物多様性方針」を推進			
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進			
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために 「キユーピーグループ 人権方針」を推進			

VOICE

松原 由紀
キユーピー株式会社
生産本部

生産現場では、“夢多`採り(むだどり)活動”と呼ばれる改善活動の一環で、食品ロス削減にも積極的に取り組んでいます。マヨネーズ製造ラインの切り替え時に洗浄工程で配管から排出されるマヨネーズなどを、バイオガス発電※に活用する取り組みを実現しました。

※バイオガス発電は、家畜の排泄物等を発酵させて生成された可燃性のバイオガスを利用して発電する仕組み

TCFDへの取り組み

TCFDフレームワークに基づく開示

2021年10月に賛同した気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言を踏まえてシナリオ分析に着手し、取り組みを進めています。2021年度はマヨネーズ、ドレッシング(特に深煎りごまドレッシング)の主原料である食油・卵・食酢について、穀物を主体とした農作物は気候変動が影響することを認識しました。2022年度は新たにタマゴに対する気候変動リスクと機会の分析を手掛けました。

2022年度TCFD報告　https://www.kewpie.com/sustainability/pdf/sustainability_20230110_tcfd.pdf

気候変動への対応

気候変動への対応は世界共通の課題です。当社グループでは気候変動の原因となるCO_2排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階において、省エネルギーやエネルギー転換などに、積極的に取り組んでいます。

再生可能エネルギーの活用

渋谷オフィス・仙川キユーポートの2拠点における使用電力を実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替えました。また、キユーピー神戸工場と株式会社キタカミデリカではオンサイトPPAモデル※1での運用を開始しました。キユーピー神戸工場においては2022年12月から、J-クレジット※2の購入により、実質再生可能エネルギー由来100%へ切り替え、キユーピーグループ初のネットゼロ工場を実現しています。

さらに、国内3拠点にて太陽光パネルの設置を予定しており、今後も積極的に再生可能エネルギーへの転換を進めていきます。

※1 発電事業者(PPA事業者)が企業などの敷地内に発電設備を設置して、電気を提供する仕組み
※2 J-クレジット制度とは、温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度

キユーピー神戸工場(左)、キタカミデリカ(右)の屋上に設置した太陽光パネル

中期経営計画

サステナビリティ活動による価値創造

子どもの心と体の健康支援

人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献したいと考えています。食を中心とした様々な取り組みを通じて子どもの心と体の健康を応援します。

環境変化と社会課題
- 食への関心の低下
- 格差社会の拡大
- 食に関する知識や体験の不足

提供する価値
- 食育を通じた食の大切さや楽しさ
- 食を通じた子どもの支援
- 子どもの食に関する課題の解決
- 子どもの心と体の健康

食育を中心とした活動

当社グループでは、従業員が自ら食育活動に関わり、お客様とのつながりを大切にしながら、幅広い世代の方に寄り添った食体験の場や食に関する情報を発信しています。国内では、2022年度から新たにSDGs教室を開始し、海外においても現地に根付いた食育活動に力を入れています。

マレーシア
野菜の摂取量向上を目的に小学生を対象としたサンドイッチ教室を実施

中国
北京・杭州・広州の3工場でオープンキッチン（工場見学）を実施

ベトナム
中学校で野菜等の栄養の勉強会とサラダの調理実習を実施

食育活動の全体像　https://www.kewpie.com/education/overview/

サンドイッチ教室の様子（マレーシア）

キユーピーみらいたまご財団

2017年4月に設立し、食育活動および子どもの貧困対策などに取り組む団体を幅広く公募し、寄付を中心とした支援活動を実践することで、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざしています。2022年度から「産前と産後ケア」に関わる食育事業への支援の充実を図りました。設立から2022年度まで累計480団体約1億6千万円の助成を行っています。

キユーピーみらいたまご財団　https://www.kmtzaidan.or.jp/

支援団体との共同イベントの様子

持続可能な調達

大切な原資材は、今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。私たちは製造・販売プロセスだけでなく、商品を作るための原資材の調達プロセスにおいても社会的責任を果たします。

環境変化と社会課題
- 世界人口の増加と気候変動による食糧不足
- 環境保全の意識の高まり
- 人権意識の高まり

提供する価値
- 安全・安心
- お取引先との協働による持続的な供給
- 循環プロセスの構築

持続可能なパーム油の調達

「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づき、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、取り組みを進めています。キユーピーグループで調達するパーム油について、RSPOのブックアンドクレーム方式[※1]によるクレジットの購入を2021年までに完了しました。2022年からは、ブックアンドクレーム方式とマスバランス方式[※2]での認証油の調達に向けて取り組んでいます。

※1 ブックアンドクレーム方式：RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット（証券）を発行。その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。
※2 マスバランス方式：認証パーム油が製造・流通過程で他の非認証パーム油と混合される認証モデル。物理的には非認証油も含んでいるが、認証農園から供給された認証パーム油の量は保証される。

サプライヤーガイドラインの運用開始

当社グループの調達先である大切なお取引先に対し「キユーピーグループ サプライヤーガイドライン」を定め一部運用を開始しました。本ガイドラインをもって相互理解のもと、サプライチェーンにおける様々な課題解決を行い、持続可能な調達およびお取引先との共存共栄をめざします。

野菜未利用部の循環システムの構築

株式会社サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただく取り組みを行っています。契約農家にとっても、安価な国産堆肥が手に入るとともに、有機堆肥の使用は地球環境負荷を低減できるメリットもあります。野菜未利用部で作られた堆肥を使って栽培した野菜を用い、商品を製造することで資源を無駄にしない循環プロセスを構築でき、「野菜廃棄物ゼロ化」につながっています。